

令和2年度 宇部工業高等専門学校自己点検・評価結果

1 評価

評価の概要

宇部工業高等専門学校自己点検表基準1から基準10までの点検項目について、実施状況（各部署による自己点検結果）を「＜S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である＞」の4段階で評価した。

各基準の自己点検に対する評価の概要を以下に示す。

（基準1）教育の内部質保証システム

- ・概ね良好と判断する。
- ・自己点検・評価の方針及び自己点検の基準を大幅に改善している。また、学習・教育到達目標も社会の要求に応えるため改善し、それに伴い3つの方針についても改善している。

（基準2）教育組織及び教員・教育支援者等

- ・概ね良好と判断する。
- ・オンデマンド講義に関するFDを実施し、授業改善を行うと共に、学生に対するアンケートを実施し、満足度・理解度の向上を確認している。

（基準3）学習環境及び学生支援等

- ・概ね良好と判断する。
- ・学生寮に対する学生の満足度が低くなっている。

（基準4）財務基盤及び管理運営

- ・良好と判断する。
- ・外部の教育資源を有効に活用している。

（基準5）準学士課程の教育課程・教育方法

- ・概ね良好と判断する。
- ・グローバル人材育成事業として、低学年科目において英語によるまとめを実施している。
- ・新型コロナウイルス感染症のため、インターンシップが中止となり、実践力を育む教育が不十分となっている。
- ・成績評価の事後チェック及び試験問題の適切性に関して、学校として組織的な取組みが十分になされていると判断できない。

(基準6) 準学士課程の学生の受け入れ

- ・良好と判断する。
- ・教員FDでは推薦選抜における活動記録と入学後の成績の間の相関について検証結果が説明されている。

(基準7) 準学士課程の学習・教育の成果

- ・良好と判断する。
- ・進学率、就職率ともに100%となっている。

(基準8) 専攻科課程の教育活動

- ・概ね良好と判断する。
- ・成績評価の事後チェック及び試験問題の適切性に関して、学校として組織的な取組みが十分になされていると判断できない。
- ・アドミッションポリシーに沿った入学選抜が行われているかの検証ができていないことと、それにより改善への取組みがなされていない。

(基準9) 研究活動の状況

- ・良好と判断する。
- ・これまでは高専機構の研究に関する方針に則り活動しているが、新たに独自の研究に関する方針を策定している。

(基準10) 地域貢献活動等の状況

- ・良好と判断する。
- ・これまでは高専機構の地域貢献に関する方針に則り活動しているが、新たに独自の地域貢献活動に関する方針を策定している。

運営諮問会議における評価と意見

- ・概ね良好であるとの評価であった。
- ・当該年度は新型コロナウイルス感染症のため、インターンシップや海外研修などの活動が大幅に制限されたことを考慮すると、実践力を育む教育上の工夫に関する自己点検結果が低くなっているのは厳しすぎるのではないかとの意見があった。

2 改善を要する点

改善を要する点

改善を要すると判断した点は以下のとおりである。

(基準5) 準学士課程の教育課程・教育方法

- ① 5-8 新型コロナウイルス感染症のため、インターンシップが中止となり、実践力を育む教育が不十分となっている。

(基準8) 専攻科課程の教育活動

- ② 8-24 APに沿った入学選抜が実施されているか検証できていない。
- ③ 8-25 そのため、改善に向けた取組みが実施できていない。

また、C評価ではないが、以下についても改善が必要と判断した。

(基準5) 準学士課程の教育課程・教育方法

- ④ 5-21,22 成績評価の事後チェック及び試験問題の適切性に関して、学校として組織的な取組みが十分になされていると判断できない。

(基準8) 専攻科課程の教育活動

- ⑤ 8-16,17 成績評価の事後チェック及び試験問題の適切性に関して、学校として組織的な取組みが十分になされていると判断できない。

令和2年度宇部工業高等専門学校自己点検表

基準1

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である

点検項目	実施計画	実施状況（案）	評価
教育の内部質保証システム			
【内部質保証】			
1-1 自己点検・評価の方針は関係法令に適合しているか。	学校教育法第109条に沿った自己点検・評価の方針を定める。	学校教育法第109条に沿った自己点検・評価の方針を定めた。	A
1-2 自己点検・評価の体制（委員会等）に不備はないか。	委員会等の構成を確認する。	適切な体制となっている。	A
1-3 自己点検・評価の基準や項目は適切であるか。	学校教育法第109条に沿った自己点検・評価の基準及び項目を定める。	学校教育法第109条に沿った自己点検・評価の基準及び項目を定めた。	A
【自己点検・評価の実施】			
1-4 文書管理規則に従い、資料は適切に管理・保管されているか。	文書管理規則に従い、適切に管理・保管する。	文書管理規則に従い、各部署において適切に管理・保管を徹底している。	A
1-5 自己点検・評価を定期的実施し、その結果を公表しているか。	自己点検・評価を実施し、公表する。	本自己点検・評価が完了次第、速やかに公表する。	A
【学内意見聴取】			
1-6 自己点検・評価は教員の意見を反映しているか。	教員への意見聴取を実施し、自己点検・評価に反映する。	授業改善アンケート報告書兼授業改善計画書を評価結果に反映した。	A
1-7 自己点検・評価は事務職員の意見を反映しているか。	事務職員への意見聴取を実施し、自己点検・評価に反映する。	各部署の点検結果を評価結果に反映した。	B
1-8 自己点検・評価は技術職員の意見を反映しているか。	技術職員への意見聴取を実施し、自己点検・評価に反映する。	実験室・演習室の整備状況等の評価結果を反映した。	B
1-9 自己点検・評価は学生の意見を反映しているか。	学生への意見聴取を実施し、自己点検・評価に反映する。	学生に対する各種アンケートの調査結果を評価結果に反映した。	A
1-10 自己点検・評価は学生の授業評価の結果を踏まえて行っているか。	学生の授業評価の結果を自己点検・評価に反映する。	授業改善アンケートの調査結果を評価結果に反映した。	B
1-11 自己点検・評価は学生の教育・学習の達成度を踏まえて行っているか。	学生の教育・学習の達成度を自己点検・評価に反映する。	卒業・修了時アンケートの調査結果を評価結果に反映した。	A
1-12 自己点検・評価は学生の学習環境を踏まえて行っているか。	今回は令和4年度に実施予定である。	卒業・修了生及び在校生に対し、アンケートを実施した。	A
1-13 自己点検・評価は学生の満足度を踏まえて行っているか。	学生の満足度を自己点検・評価に反映する。	卒業・修了時アンケート及び授業改善アンケートの調査結果を評価結果に反映した。	A

【学外意見聴取】				
1-14	自己点検・評価に際し、保護者の意見を反映しているか。	保護者への意見聴取を実施し、自己点検・評価に反映する。	保護者会期間中にアンケートを実施した。	B
1-15	自己点検・評価に際し、卒業生の意見を反映しているか。	次回は令和4年度に実施予定である。	次回は令和4年度に実施予定である。	—
1-16	自己点検・評価に際し、就職先企業の意見を反映しているか。	次回は令和4年度に実施予定である。	次回は令和4年度に実施予定である。	—
1-17	自己点検・評価に際し、進学先教育機関の意見を反映しているか。	次回は令和4年度に実施予定である。	次回は令和4年度に実施予定である。	—
1-18	自己点検・評価は卒業生・修了生の学習成果の効果を踏まえて行っているか。	次回は令和4年度に実施予定である。	次回は令和4年度に実施予定である。	—
1-19	自己点検・評価は就職先・進学先における学習成果の効果を踏まえて行っているか。	次回は令和4年度に実施予定である。	次回は令和4年度に実施予定である。	—
1-20	自己点検・評価結果を改善に結び付ける体制となっているか。	各委員会が自己点検・評価結果を改善に結び付けることができる体制となっているか確認する。	新しい自己点検・評価の体制の下で、今後は各委員会等における改善に向けた議論を集約し、評価に反映する予定である。	—
1-21	前回機関別認証評価における「改善を要する点」に対する取り組みを継続しているか。	前回機関別認証評価における「改善を要する点」に対する取り組みを継続する。	継続できている。	A
1-22	運営諮問会議における指摘・コメントに対する対応を行っているか。	運営諮問会議において意見を聴取し、その課題に対する改善を行う。	機関評価室より教育改善部会に授業改善アンケート項目に関する審議を依頼し、部会にて改善策を審議した。	A
【3つの方針】				
1-23	学習・教育目標は適切であるか。	学習・教育目標は適切であるか議論する。	令和2年12月8日に開催された運営委員会にて改正が承認された。今後、定期的に適切性について議論を行い必要に応じ改善を行う。	A
1-24	ディプロマポリシー（DP）は適切であるか。	DPが適切であるか議論する。	令和2年12月8日に開催された運営委員会にて改正が承認された。今後、定期的に適切性について議論を行い必要に応じ改善を行う。	A
1-25	カリキュラムポリシー（CP）は適切であるか。	CPが適切であるか議論する。	令和2年12月8日に開催された運営委員会にて改正が承認された。今後、定期的に適切性について議論を行い必要に応じ改善を行う。	A
1-26	アドミッションポリシー（AP）は適切であるか。	APが適切であるか議論する。	令和2年12月8日に開催された運営委員会にて改正が承認された。今後、定期的に適切性について議論を行い必要に応じ改善を行う。	A

基準2

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である

点検項目	実施計画	実施状況（案）	評価
教育組織及び教員・教育支援者等			
【教育に係る組織の体制】			
2-1 学科・専攻の構成は適切であるか。	学科・専攻科の構成が適切であるか審議する。	入学志願者数及び求人数より、社会のニーズに適した学科・専攻の編成であると判断する。	A
2-2 教育活動を展開するための体制が適切に機能しているか。	教育活動を展開するための体制が適切に機能しているか審議する。	各委員会は定期的実施されている。	A
【教員】			
2-3 一般科目の教員配置は適切であるか。	一般科目の教員配置が適切であるか検証する。	進級・卒業認定会議の結果より、教育の成果が認められており、適切であると判断する。	A
2-4 専門科目の教員配置は適切であるか。	専門科目の教員配置が適切であるか検証する。	進級・卒業認定会議の結果より、教育の成果が認められており、適切であると判断する。	A
2-5 教員の採用は公募により適切に行われているか。	公募により教員の採用を行う。	経営情報学科1名、物質工学科1名、機械工学科1名の計3名をすべて公募により採用している。	A
2-6 教員の昇任は適切に行われているか。	教員の昇任を適切に行う。	4名（教授3名、准教授1名）の昇任人事を行った。	A
2-7 教員の評価は適切に行われているか。	教員の評価を実施する。	教員表彰規則に基づき、3月に2名の教員に対する表彰を行った。	A
2-8 教育方法に関するFDが実施されているか。	教育方法に関するFDを実施する。	教務部によりオンデマンド講義に関するFD「学生主体の遠隔授業設計講習会」を開催した。	A
2-9 FDが教育の改善に結び付いているか。	FDにより教育が改善されているか調査する。	6月にコロナ禍におけるオンデマンド授業に関するFD「学生主体の遠隔授業設計講習会」を実施した。1学期から授業の理解度、満足度のアンケートを実施し、FD後に理解度、満足度が向上していることが確認できた。	A
【教育支援者】			
2-10 教育支援者（事務職員、技術職員、図書館職員）の配置は適切であるか。	教育支援者の配置が適切であるか検証する。	適切であると判断する。	A
2-11 教育支援者に対するSDが実施されているか。	学内SDを実施する。また、高専機構等主催のSDに参加する。	7月27日に全事務職員を対象としたSDを実施した。	A

基準3

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である

点検項目	実施計画	実施状況（案）	評価
学習環境及び学生支援等			
【施設・設備】			
3-1 校地面積は適切であるか。	校地面積が適切であるか検証する。	法令に適合している。	A
3-2 校舎面積は適切であるか。	校舎面積が適切であるか検証する。	法令に適合している。	A
3-3 実習工場は適切に整備されているか。	機械工作実習に必要な設備・機材を整備・準備する。	整備できている。	A
3-4 各実験室は適切に整備されているか。	実験に必要な設備・機材を整備・準備する。	整備できている。	A
3-5 各施設・設備の安全衛生管理体制は機能しているか。	定期的に安全衛生委員会を開催する。	毎月、安全衛生委員会を実施している。	A
3-6 バリアフリー化への配慮を継続的に行っているか。	バリアフリー化への配慮を継続する。	適宜実施している。	A
3-7 施設・設備に関する満足度を調査しているか。	施設・設備に対する満足度を調査する。	卒業生・修了生に対する卒業時アンケートに施設の満足度調査に関する項目を改善し、2月に実施した。	A
3-8 施設・設備の満足度を向上するための改善を行っているか。	満足度を向上するための改善を行う。	3-7の調査結果を機関評価室会議に諮り、各部署への報告及び改善の提案を行う予定である。	—
【ICT環境】			
3-9 ICT環境の整備は適切であるか。	ICT環境を適切に整備する。	情報処理センターにより適切に整備され、教職員及び学生は快適に使用できている。	A
3-10 ICT環境のセキュリティ管理体制は適切に機能しているか。	情報セキュリティ管理を徹底する。	全教職員、学生に対して、情報セキュリティに関する宣誓書を提出させた。	A
3-11 ICT環境は有効に活用されているか。	ICT環境を有効利用する。	ほとんどの学科、学年において情報処理センターが管理する演習室（計算機室）が利用されている。	A
3-12 ICT環境に対する満足度を調査しているか。	ICT環境の満足度調査を実施する。	卒業生・修了生（卒業時アンケート）および在校生に対する調査を実施した。	A
【図書館】			
3-13 図書、学術雑誌、視聴覚資料等が系統的に収集・整理されているか。	図書等を適切に管理するとともに、新規図書等を適切に収集する。	各学科により選定した図書を購入した。	A
3-14 図書、学術雑誌、視聴覚資料等は有効に活用されているか。	図書等の利用状況を調査する。	図書館来館者数は14,413名、貸出図書数は3,244冊であった。	A
3-15 図書、学術雑誌、視聴覚資料等が有効に活用されるための取り組みを行っているか。	図書等の利用を促進する取り組みを実施する。	図書館HPに新着案内や特集を掲載するとともに、図書館だよりを発行している。	A

【ガイダンス】				
3-16	準学士課程の学生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。	準学士課程の学生に対する教育上のガイダンスを実施する。	令和2年4月3日に新入生オリエンテーションを実施した。	A
3-17	専攻科の学生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。	専攻科の学生に対する教育上のガイダンスを実施する。	各学期の初めにオリエンテーションを実施した。	A
3-18	編入生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。	編入生に対する教育上のガイダンスを実施する。	今年度は該当なし。	—
3-19	留学生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。	留学生に対する教育上のガイダンスを実施する。	情報処理センターによる情報処理センター利用のための講習会を実施した。	A
3-20	障害のある学生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。	障害のある学生に対する教育上のガイダンスを実施する。	修学支援室により学生及び保護者に対するガイダンスを実施している。また、オンデマンド講義に対する修学支援も実施した。	A
3-21	社会人学生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。	社会人学生に対する教育上のガイダンスを実施する。	今年度は該当なし。	—
【学生のニーズ把握・支援】				
3-22	担任制・指導教員制は有効に機能しているか。	担任指導、指導教員による指導を行う。	指導教員マニュアルを配布（サイボウズ等保管場所のアナウンス）し、質問には専攻科長が随時対応した。専攻科生指導に関する説明会は新指導教員を対象として個別に実施した。	A
3-23	オフィスアワーは有効に機能しているか。	オフィスアワーを実施し、利用者数を把握する。	オフィスアワー利用者は延べ2693人であった。	A
3-24	保健室は有効に機能しているか。	利用者数を把握する。	保健室利用者は延べ361人であった。	A
3-25	相談室は有効に機能しているか。	利用者数を把握する。	学生相談室の利用者は延べ528人であった。	A
3-26	キャリア相談室・資料室は有効に機能しているか。	利用者数を把握する。	キャリア相談数は254件であった。	A
3-27	（障害学生）修学支援は有効に機能しているか。	利用者数を把握する。	修学支援室によりウオッチリストを作成し、学生の見守りを行っており、有効に機能していると判断できる。	A
3-28	学生への経済的支援（授業料免除、各種奨学金）は有効に機能しているか。	利用者数を把握する。	修学支援新制度（給付奨学金・授業料免除）140名、高専機構授業料免除65名、民間等奨学金の受給者29名、学生支援緊急給付金8名、新型コロナウイルス感染症対策助成事業10名であった。これらの実績から有効に機能していると判断できる。（令和2年度に実施された新型コロナウイルス感染症に伴う特別支援を含む。）	A
3-29	資格・検定試験支援制度は有効に機能しているか。	利用者数を把握する。	資格取得奨励制度利用者は延べ50名であった。	A
3-30	海外への留学支援は有効に機能しているか。	利用者数を把握する。	今年度は留学を見合わせている。	—
3-31	学生会あるいは学生との懇談会を実施しているか。	学生会との懇談会を実施する。	新型コロナウイルス感染防止のため、学生部と学生課が連携を取りながらクラスマッチ及び高専祭を成功させた。	A

【キャリア指導・支援】				
3-32	進路指導ガイダンスを実施しているか。	ジェネリックスキルにおいてキャリア教育を実施する。	ジェネリックスキル（新カリキュラム）及び技術者リテラシー（旧カリキュラム）において、キャリア教育を実施している。	A
3-33	進学・就職に関する説明会を実施しているか。	進学・就職に関する説明会を実施する。	合同企業研究会を12月11日に実施したほか、企業説明会（9社）及び大学説明会（5校）を実施した。また、1月12日に、4年生に対して「就職・進学活動のメンタルヘルス講習会」を実施し、4年生と専攻科1年生に「就職・進学活動ガイドブック」を配布した。	A
【課外活動】				
3-34	課外活動に対する支援は有効に機能しているか。	学生会を通じた活動費の配分や学外コーチの採用などの支援を行う。	コロナウイルス感染防止のため、マスク配布の他、各クラブに消毒や除菌シートの配布などの支援を行った。	A
3-35	課外活動に対する責任体制は適切であるか。	責任体制を明確にするとともに、教員と学生に周知する。	各クラブに2～3人の顧問を配置するとともに、活動時間中は学生主事又は学生主事補が緊急対応ができる体制としている。	A
3-36	課外活動に対する責任体制は有効に機能しているか。	責任体制が有効に機能しているか検証する。	組織的な責任体制を整備しており、機能していると判断する。	A
【学生寮】				
3-37	学生寮は生活の場として有効に機能しているか。	生活の場として有効に機能しているか検証する。	概ね有効に機能していると判断する。	B
3-38	学生寮は勉学の場として有効に機能しているか。	勉学の場として有効に機能しているか検証する。	コロナウイルス感染防止のため、SMAP（学生主体の学びの場）は実施していないが、少人数の自主学習のため多目的学習室は有効に利用されている。	A
3-39	学生寮の管理・運営体制は有効に機能しているか。	管理・運営体制が有効に機能しているか検証する。	有効に機能していると判断する。	A

基準 4

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である

点検項目	実施計画	実施状況（案）	評価
財務基盤及び管理運営			
【財務】			
4-1 貸借対照表等による財務状態は適切であるか。	適切な会計処理を実施する。	適切な会計処理を実施した。	A
4-2 運営費交付金、授業料、入学料、検定料等の経常的な収入を確保しているか。	適切な会計処理を実施する。	適切な会計処理を実施した。	A
4-3 収支状況が支出超過となっていないか。	適切な会計処理を実施する。	適切な会計処理を実施した。	A
4-4 収支に係る方針、計画が適切なプロセスで決定されているか。	適切なプロセスで予算を決定する。	5月28日に予算委員会を実施し、戦略的かつ計画的な予算管理を目的とした当初予算を計上し、配分を行った。	A
4-5 収支に係る方針、計画は適切であるか。	予算計画が適切であるか検証する。	適切であるであると判断する。	A
4-6 収支に係る方針、計画は教職員に明示されているか。	予算計画を教職員に明示する。	サイボウズにより教職員に明示している。	A
4-7 収支に係る方針、計画と資源配分が整合しているか。	予算と資源配分の整合性を検証する。	整合していると判断する。	A
4-8 財務状況が法令に基づき適切に作成・公表されているか。	財務状況を作成し、公表する。	学校要覧により公表している。	A
4-9 財務に係る監査が適切に実施されているか。	適切な監査を実施する。	令和2年度会計内部監査及び公的研究費に関する内部監査を书面監査期間を含めて、10月26日から1月29日にかけて実施した。	A
【管理運営】			
4-10 管理運営体制が有効に機能しているか。	管理運営体制が有効に機能しているか検証する。	機能していると判断する。	A
4-11 管理運営に係る委員会が有効に機能しているか。	管理運営に係る委員会が有効に機能しているか検証する。	毎週火曜日の組織検討・運営委員会及び月1回の運営委員会が確実に実施されている。	A
4-12 校長、主事等の役割分担は適切であるか。	校長、主事等の役割分担が適切であるか検証する。	適切であると判断する。	A
4-13 教員と事務職員の役割分担は適切であるか。	教員と事務職員の役割分担が適切であるか検証する。	適切であると判断する。	A
4-14 教員と事務職員との連携体制が有効に機能しているか。	教員と事務職員の連携体制が有効に機能しているか検証する。	有効に機能していると判断する。	A

【危機管理】			
4-15 危機管理体制は有効に機能しているか。	危機管理体制が有効に機能しているか検証する。	有効に機能している。特に今年度はコロナウイルス感染拡大防止のため、適宜リスク管理室会議が開催されている。	A
4-16 危機管理マニュアルは適切であるか。	危機管理マニュアルの見直しを行う。	適切であると判断する。	A
4-17 危機に備えた訓練を実施しているか。	避難訓練を実施する。	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から1年生を対象とした防火避難教育をホームルームの時間に行った。	A
【外部資金の活用】			
4-18 外部資金を獲得する取り組みを行っているか。	外部資金獲得のための講演会や説明会を実施する。	オンラインによる科研費説明会を実施した。	A
4-19 公的資金が適切に管理されているか。	公的資金を適切に管理する。	適切に管理している。	A
4-20 公的資金を適切に使用するための取り組みが行われているか。	公的資金の不正使用防止のための研修を実施する。	全教職員を対象とした公的資金の適正使用に関する研修会を3月に実施した。	A
【外部教育資源の活用】			
4-21 外部の教育資源を有効に活用しているか。	外部教育資源を有効活用する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオ映像の配信などの工夫を行いながら、外部の教育資源を利用している。 ・課外活動指導員や学外コーチとして、地域の有識者や経験者に課外活動の指導支援を依頼している。 ・企業との共同研究を実施したほか、共催でテクノフェアを実施するなど、T&Bと連携した活動を展開した。 ・国内外の高等教育機関や企業と協定を締結し、学生・教員の交流や事業連携を行っている。 	A
【スタッフ・ディベロップメント】			
4-22 SDが適切に実施されているか。	学内SDを実施する。また、機構主催のSDに職員を派遣する。	7月27日に全事務職員を対象としたSDを実施した。また、事務連絡会（係長以上対象）において、小規模のSDを4回実施した。さらに、高専機構、他機関が主催する研修に職員を参加させた。	A

【情報公開】				
4-23	法令に従い、学校の目的及び3つの方針が公表されているか。	学校の目的及び3つの方針をHPにより公開する。	HPに掲載している。	A
4-24	法令に従い、教育研究上の基本組織が公表されているか。	組織図をHPにより公開する	HPに掲載している。	A
4-25	法令に従い、教員組織、教員の数並びに教員が保有する学位及び業績が公表されているか。	教員組織、教員の数、学位、業績をHPにより公表する。	HPに公開している。	A
4-26	法令に従い、入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況が公表されているか。	各種データを学校要覧に記載する。	HPに掲載している。	A
4-27	法令に従い、授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画が公表されているか。	シラバス一覧、シラバス及び行事予定表をHPにより公開する。	HPに掲載している。	A
4-28	法令に従い、学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準が公表されているか。	成績評価基準、卒業・修了認定基準をHP（学則・教務規則）により公開する。	HPに掲載している。	A
4-29	法令に従い、校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境が公表されているか。	学校の施設・設備及び教育研究環境をHP（学校要覧）により公開する。	HPに掲載している。	A
4-30	法令に従い、授業料、入学料その他の高等専門学校が徴収する費用が公表されているか。	授業料、入学料その他の費用をHP（学校案内）により公開する。	HPに掲載している。	A
4-31	法令に従い、高等専門学校が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援が公表されているか。	修学支援室、キャリア支援室、学生相談室及び保健室等の支援体制をHP（学校要覧）により公開する。	HPに掲載している。	A
4-32	学校の目的及び3つの方針が教職員、学生に周知されているか。	学校の目的及び3つの方針を学内関係者に周知する。	HPに掲載している。	A

基準5

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である

点検項目	実施計画	実施状況（案）	評価
準学士課程の教育課程・教育方法			
【教育課程の編成・内容・方法】			
5-1 カリキュラムポリシーに照らし、授業科目の配置は適切であるか。	授業科目の配置が適切あるか議論する。	CPに基づき配置している。	A
5-2 一般教育は充実しているか。	一般教育が充実しているか議論する。	CPに基づき配置している。	A
5-3 進級に関する規定は適切であるか。	進級に関する規定が適切であるか議論する。	概ね適切であると判断する。	B
5-4 授業を行う期間は35週が確保されているか。	35週を確保する。	確保している。	A
5-5 特別活動は90単位時間以上確保されているか。	90単位時間以上確保する。	確保している。	A
5-6 学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等を踏まえた教育課程における配慮がなされているか。	学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請を踏まえ、教育課程における配慮を行う。	グローバル人材教育の一環として、英語による授業のまとめを推進している。	S
5-7 創造力を育む教育方法の工夫を行っているか。	創造力を育む教育方法の工夫を行う。	新2・3年生全員がプロジェクト学習を履修した。	A
5-8 実践力を育む教育方法の工夫を行っているか。	実践力を育む教育方法の工夫を行う。	新型コロナウイルス感染防止のためすべてのインターンシップを中止とした。	C

【授業形態・学習指導法】				
5-9	カリキュラムポリシーに照らして講義、演習、実験・実習が適切に配置されているか。	講義、演習、実験・実習の配置について議論する。	適切に配置されている。	A
5-10	教育内容に応じて学習指導上の工夫がなされているか。	学習指導上の工夫を行う。	1・2学期は実験実習を除き、オンデマンドによる講義・演習が実施された。2学期のプロジェクト学習では、Teamsによる遠隔グループワークを実施した。	A
5-11	シラバスが適切に作成されているか。	シラバスを適切に作成する。	シラバス作成マニュアルを配布し（1月7日付メール）、概ね適切に作成されている。	B
5-12	学生はシラバスを有効に活用しているか。	学生のシラバス活用状況を調査する。	授業改善アンケートにより調査した。	A
5-13	教員はシラバスを有効に活用しているか。	教員のシラバス活用状況を調査する。	職務上の活動に関する自己申告書により調査した。	A
5-14	シラバスは適切に改善されているか。	シラバスの改善状況を調査する。	シラバス作成マニュアルを配布し、一部様式の改善を実施した。	A
5-15	学修単位科目における履修時間の実質化のための取り組みが適切に行われているか。	学修単位科目における履修時間の実質化のための取り組みを行う。	概ねすべての科目で事前・事後学習の課題一覧を作成している。	B
5-16	学修単位科目における学生の授業外学習時間を把握しているか。	学修単位科目における授業外学習時間を把握する。	各教員が事前・事後学習の課題一覧に所要時間を記載し、合計時間が1単位当たり30時間となるように設計しているが、完全には把握できていない。	B
【成績評価・単位認定・卒業認定】				
5-17	成績評価に関する基準に基づき、適切に成績評価が行われているか。	適切に成績評価を行う。	評価割合をシラバスに記載し、これに基づき評価を行っている。	A
5-18	単位認定に関する基準に基づき、適切に単位認定が行われているか。	適切に単位認定を行う。	3月5日,12日にそれぞれ卒業認定会議及び進級認定会議を実施した。	A
5-19	成績評価・単位認定に関する基準に関する学生の認知状況を把握しているか。	成績評価基準及び単位認定基準に関する学生の認知状況を把握する。	3学期末にTeamsによるアンケートを実施した。さらに、授業改善アンケートに当該項目を追加した。	A
5-20	試験後に答案を返却し、模範解答を示しているか。	試験後に答案を返却し、模範解答を示す。	1, 2学期はオンデマンド授業のため対面試験は実施していない。3学期以降は通常の対面試験を実施し、試験返却及び模範解答の提示を実施した。	A
5-21	試験のレベルが適切であるかチェックがなされているか。	試験のレベルが適切であるか点検する。	概ね実施できている。	B
5-22	成績評価の事後チェックがなされているか。	成績評価の事後点検を行う。	概ね実施できている。	B
5-23	複数年度にわたり同一試験問題が繰り返されていないかのチェックがなされているか。	複数年度にわたり同一試験問題が繰り返されていないか点検する。	実施できている。	A
5-24	卒業認定基準を学生に周知しているか。	卒業認定基準を学生に周知する。	入学時に配布する学生便覧及びHPに教務規則を掲載することにより周知している。	A
5-25	卒業認定基準について、学生の認知状況を把握する取り組みがなされているか。	卒業認定基準の周知状況をアンケートにより調査する。	3学期末にTeamsによるアンケートを実施した。さらに、授業改善アンケートに当該項目を追加した。	A

基準6

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である

点検項目	実施計画	実施状況（案）	評価
準学士課程の学生の受け入れ			
【準学士課程の学生の受け入れ】			
6-1 アドミッションポリシーに沿った学力選抜試験が実施されているか。	APに沿った学力選抜試験を実施する。	5月18日開催の入試委員会において、入学者募集要項、選抜における評価基準について審議した。さらに、2月25日開催の入試委員会において入試判定に関する審議を行った。	A
6-2 アドミッションポリシーに沿った推薦選抜試験が実施されているか。	APに沿った推薦選抜試験を実施する。また、活動記録の評価項目の見直しを実施する。	1月18日開催の活動記録評価グループ会議において、選抜における評価基準について審議した。さらに、1月27日開催の委員会において入試判定に関する審議を行った。	A
6-3 アドミッションポリシーに沿った帰国子女選抜試験が実施されているか。	APに沿った帰国子女選抜試験を実施する。	志願者がいなかったため実施していない。	—
6-4 入学した学生がアドミッションポリシーに沿っているかの検証がなされているか。	入学生がAPに沿っているか検証する。特に、推薦選抜試験においては、活動記録と本校での成績との相関を分析する。	5月19日開催の教員FD「学部高専の入試について考える」において、検証結果を報告した。	A
6-5 検証した結果が改善に役立てられているか。	検証結果をもとに次年度の実施計画における改善計画を策定する。	令和4年度入試より中学校学習指導要領に対応した問題に変更となること、また高専機構の統一様式を用いるため調査書等の様式が大きく変更になることなどの理由により、機構本部の方針決定を待ち、改善計画は令和3年度の入学試験委員会において策定することとした。	—
6-6 入学定員に対し、入学者数は適切であるか。	入学定員に対する入学者数を調査する。	令和2年度の入学者/入学定員は1.055となっている。	A
6-7 入学定員に対し、入学者数が大幅に不足または超過した場合に、改善の取り組みがなされているか。	入学定員に対する入学者数に大きな過不足があった場合には、次年度の実施計画における改善計画を策定する。	入学者数は適正であったため、該当しない。	—

基準7

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である

点検項目	実施計画	実施状況（案）	評価
準学士課程の学習・教育の成果			
【準学士課程の学習・教育の成果】			
7-1 成績評価・卒業認定の結果から学習・教育の成果が認められるか。	卒業及び進級認定会議を実施する。	3月5日及び3月12日にそれぞれ卒業認定会議及び進級認定会議を実施した。	A
7-2 卒業時の意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	卒業時に学生へのアンケート調査を行う。	卒業生に対するアンケートをTeamsにより実施した。	A
7-3 卒業生からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	今回は令和4年度に実施予定である。	今回は令和4年度に実施予定である。	—
7-4 就職先からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	今回は令和4年度に実施予定である。	今回は令和4年度に実施予定である。	—
7-5 進学先からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	今回は令和4年度に実施予定である。	今回は令和4年度に実施予定である。	—
7-6 就職率から学習・教育の成果が認められるか。	就職率を算出する。	令和2年度の就職率は100%であった。	A
7-7 進学率から学習・教育の成果が認められるか。	進学率を算出する。	令和2年度の進学率は100%であった。	A
7-8 就職先、進学先は学科が養成しようとする人材像に適したものとなっているか。	各学科のDPと就職先及び進学先との整合性について検証する。	学科会議において就職先・進学先一覧を提示し、情報を共有した。	A

基準 8

S : 特に優れている A : 良好である B : 概ね良好である C : 不十分である

点検項目	実施計画	実施状況 (案)	評価
専攻科課程の教育活動			
【教育課程の編成・内容・方法】			
8-1	カリキュラムポリシーに照らし、適切な授業配置となっているか。	授業科目の配置が適切あるか議論する。	大学改革支援・学位授与機構の特例適用の認定を受けており、適切に配置されていると判断する。
8-2	専攻科の教育課程は準学士課程の教育と連携し、発展した構成となっているか。	専攻科の教育課程が準学士課程の教育と連携し、発展した構成となっているか審議する。	大学改革支援・学位授与機構の特例適用の認定を受けており、考慮した教育課程となっていると判断する。
【授業形態・学習指導法】			
8-3	カリキュラムポリシーに照らして講義、演習、実験・実習が適切に配置されているか。	講義、演習、実験・実習の配置について議論する。	適切に配置されている。
8-4	教育内容に応じて学習指導上の工夫がなされているか。	学習指導上の工夫を行う。	教材の工夫、少人数教育、フィールド型、対話型の授業を実施した。また、1・2学期実施のオンデマンド授業では、情報機器活用の利点を活かした授業を展開した。
8-5	学生への教養教育や研究指導が適切に行なわれているか。	教養教育や研究指導を適切に行う。	大学改革支援・学位授与機構の特例適用の認定を受けており、適切に行われていると判断する。
8-6	シラバスが適切に作成されているか。	シラバスを適切に作成する。	全教員に向けシラバス作成マニュアルをメールにより配布した。
8-7	学生はシラバスを有効に活用しているか。	学生のシラバス活用状況を調査する。	授業改善アンケートにより調査した。
8-8	教員はシラバスを有効に活用しているか。	教員のシラバス活用状況を調査する。	職務上の活動に関する自己申告書により調査した。
8-9	シラバスは適切に改善されているか。	シラバスの改善状況を調査する。	シラバス作成マニュアルを配布し、一部様式の改善を実施した。
8-10	学修単位科目における履修時間の実質化のための取り組みが適切に行われているか。	学修単位科目における履修時間の実質化のための取り組みを行う。	事前・事後学習の課題一覧を作成している。
8-11	学修単位科目における学生の授業外学習時間を把握しているか。	学修単位科目における授業外学習時間を把握する。	各教員が事前・事後学習の課題一覧に所要時間を記載し、合計時間が1単位当たり30時間となるように設計している。

【成績評価・単位認定・卒業認定】				
8-12	成績評価に関する基準に基づき、適切に成績評価が行われているか。	適切に成績評価を行う。	評価割合をシラバスに記載し、これに基づき評価を行っている。	A
8-13	単位認定に関する基準に基づき、適切に単位認定が行われているか。	適切に単位認定を行う。	2月17日に修了認定会議を実施した。	A
8-14	成績評価・単位認定に関する基準に関する学生の認知状況を把握しているか。	成績評価基準及び単位認定基準に関する学生の認知状況を把握する。	授業改善アンケートに成績評価・単位認定に関する基準の認知状況を把握するための質問を追加した。	A
8-15	試験後に答案を返却し、模範解答を示しているか。	試験後に答案を返却し、模範解答を示す。	答案の返却及び模範解答の提示を実施した（授業改善アンケートの項目に設定されている）。	A
8-16	試験のレベルが適切であるかチェックがなされているか。	試験のレベルが適切であるか点検する。	概ね実施できている。	B
8-17	成績評価の事後チェックがなされているか。	成績評価の事後点検を行う。	概ね実施できている。	B
8-18	複数年度にわたり同一試験問題が繰り返されていないかのチェックがなされているか。	複数年度にわたり同一試験問題が繰り返されていないか点検する。	実施できている。	A
8-19	修了認定基準を学生に周知しているか。	修了認定基準を学生に周知する。	HPに専攻科の授業科目の履修等に関する規則を掲載することにより周知している。	A
8-20	修了認定基準について、学生の認知状況を把握する取り組みがなされているか。	修了認定基準に関する学生の認知状況を把握する。	各学期開始時にオリエンテーションを実施し、不明な点が無いか質問する機会を必ず設けた。	B

【専攻科課程の学生の受け入れ】				
8-21	アドミッションポリシーに沿った学力選抜試験が実施されているか。	APに沿った学力選抜試験を実施する。	学力選抜においては学力試験及び調査書に基づきAPに沿った評価法により選抜した。	A
8-22	アドミッションポリシーに沿った推薦選抜試験が実施されているか。	APに沿った推薦選抜試験を実施する。	推薦選抜試験においては、推薦書及び調査書に基づきAPに沿った評価法により選抜した。	A
8-23	アドミッションポリシーに沿った社会人選抜試験が実施されているか。	APに沿った社会人選抜試験を実施する。	社会人選抜試験においては、推薦書及び調査書に基づきAPに沿った評価法により選抜した。	A
8-24	入学した学生がアドミッションポリシーに沿っているかの検証がなされているか。	入学生がAPに沿っているか検証する。	検証できていない。	C
8-25	検証した結果が改善に役立てられているか。	検証結果をもとに次年度の実施計画における改善計画を策定する。	策定できていない。	C
8-26	入学定員に対し、入学者数は適切であるか。	入学定員に対する入学者数を調査する。	令和2年度の入学者/入学定員は1.45であった。	B
8-27	入学定員に対し、入学者数が大幅に不足または超過した場合に、改善の取り組みがなされているか。	入学定員に対する入学者数に大きな過不足があった場合には、次年度の実施計画における改善計画を策定する。	12月23日開催の専攻科委員会にて、入学者数超過に関する意見聴取を実施した。今後、入学者数について検討する。	B
【専攻科課程の学習・教育の成果】				
8-28	成績評価・修了認定の結果から学習・教育の成果が認められるか。	修了認定会議を実施する。	2月17日に修了認定会議を実施した。	A
8-29	修了時の意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	修了時に学生へのアンケート調査を行う。	修了生に対するアンケートをTeamsにより実施した。	A
8-30	修了生からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	今回は令和4年度に実施予定である。	今回は令和4年度に実施予定である。	—
8-31	就職先からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	今回は令和4年度に実施予定である。	今回は令和4年度に実施予定である。	—
8-32	進学先からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	今回は令和4年度に実施予定である。	今回は令和4年度に実施予定である。	—
8-33	就職率から学習・教育の成果が認められるか。	就職率を算出する。	令和2年度修了生の就職率は100%となった。	A
8-34	進学率から学習・教育の成果が認められるか。	進学率を算出する。	令和2年度修了生の進学率は100%となった。	A
8-35	就職先、進学先は学科が養成しようとする人材像に適したものとなっているか。	各専攻のDPと就職先及び進学先との整合性について検証する。	学科会議において就職先・進学先一覧を提示し、情報を共有した。	A

基準9

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である

点検項目	実施計画	実施状況（案）	評価
研究活動の状況			
【研究活動の体制】			
9-1 研究活動の目的、方針は適切であるか。	本校の研究活動の目的及び方針を定める。	令和2年12月8日運営委員会にて制定した。	A
9-2 研究活動の目的を達成するための体制は有効に機能しているか。	研究活動の目的を達成するための方策等を委員会及び推進室会議において審議する。	地域共同テクノセンター委員会を7回、同センター推進室会議を2回実施した。	A
【研究活動の状況】			
9-3 研究活動が十分に行われているか。	研究活動の状況を把握する。	学内の研究活動の状況を集約し、報告書にまとめた。	A
【研究活動の成果】			
9-4 目的、方針に沿った研究活動の成果が得られているか。	本校の目的に沿った研究成果であるか確認する。また、成果は地域共同テクノセンターNews & Reportsに集約し、公表する。	令和3年4月14日開催の第1回地域共同テクノセンター委員会において、研究活動の集約結果を提示し、本校の目的に沿っているか確認した。	A

基準10

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である

点検項目	実施計画	実施状況（案）	評価
地域貢献活動等の状況			
【地域貢献活動の体制】			
10-1 地域貢献活動の目的、方針は適切であるか。	地域貢献活動の目的及び方針について審議する。	令和2年12月8日運営委員会にて制定した。	A
10-2 地域貢献活動の目的を達成するための体制は有効に機能しているか。	地域貢献活動の目的を達成するための方策等を委員会及び推進室会議において審議する。	地域共同テクノセンター委員会を7回、同センター推進室会議を2回実施した。	A
【地域貢献活動の状況】			
10-3 地域貢献活動は十分に行われているか。	地域貢献活動の状況を把握する。	学内の地域貢献活動の状況を集約し、報告書にまとめた。	A
【地域貢献活動の成果】			
10-4 目的、方針に沿った地域貢献活動の成果が得られているか。	本校の目的に沿った地域貢献活動の成果であるか確認する。また、成果は地域共同テクノセンターNews & Reportsに集約し、公表する。	令和3年3月29日開催の第7回地域共同テクノセンター委員会において、地域貢献活動の集約結果を提示し、本校の目的に沿っているか確認した。	A